

【事業概要】

大東諸島および大陸棚周辺海域における漁場調査 (沖縄県産業振興重点研究推進事業)

吉田 聡^{*}, 中田祐二¹, 南 洋一², 今道智也³, 知名真智子⁴

本事業では、本県海域に有する米軍訓練水域や日台漁業取り決め海域の影響により、県内漁業者が利用できる漁場が縮小されていることから、新たな漁場及び水産資源の探索を行うことを目的に2018(平成30)年度より実施している。

2020(令和2)年度は、10月に大陸棚周辺海域において、6月、3月に大東諸島海域において釣獲調査を行った。

大東諸島調査においては、昼間水深600~700mでの一本釣、夜間水深200m以浅で集魚灯による釣獲試験を、夜間はクロシビカマスを主体に漁獲があり、昼間はハマダイ、ハチジョウアカムツ等の少量の漁獲があった。また、漁獲対象としているキンメイダイの漁獲がなかったことから、今後漁業者との情報交換により漁獲に向けて検討していく予定である。

昨年度同様に、今回の調査においても漁獲が多数あったクロシビカマスは、食味が良いため南北大東では比較的高価格で取引されているが、島内消費に留まっていることから、消費拡大に向けて当研究センター普及班の協力によりレトルト加工品の試作を行った。

クロシビカマスを刺身で提供する際は肉間骨を骨切り処理する必要があるが、レトルトの場合、課題であった骨も全て食する事が可能となったことから、新たな加工品として期待が持たれた。

また、南北大東島の新たな水産加工品として提案するため、3月22日に南大東漁業組合、3月25日に北大東漁業組合を訪問し、試作品の説明および試食会を行ったところ、両組合ともに好感触を得たことから今後の展開が期待された。

大陸棚周辺海域調査においては、調査船による延縄、用船による一本釣の漁獲試験を実施し、キダイ、ユメカサゴ、ハナフエダイ、ハマダイ、アラを釣獲することができた。

また、昨年同様に調査に同行した漁業者の協力により豊洲市場での評価を行ったところ、ユメカサゴ1000円/kg、アラ2,000~6,000円/kgで販売することができた。

今回は県内セリにもアラを出したところ1,500円/kgの価格がついた。

しかしながら、ユメカサゴ、アラともに県内市場での認知度が低いため、今後の普及活動による認知度向上が必要であると思われた。



写真 大東調査 集魚灯による釣獲調査(左)と南北大東漁業組合への加工品提供の様子(右)



写真 大陸棚調査 用船漁船により漁獲されたアラ(左)とユメカサゴ等(右)

*E-mail : yoshidsa@pref.okinawa.lg.jp 本所(現所属: 沖縄県農林水産部水産課)

¹現所属: 沖縄県農林水産部水産課

²現所属: 沖縄県北部農林水産振興センター農業水産整備課

³沖縄県水産海洋技術センター普及班(現所属: 沖縄県宮古農林水産振興センター農林水産整備課)

⁴沖縄県水産海洋技術センター普及班(現所属: 沖縄県農林水産部水産課)